平成 21 年 9 月 31 日

かわら版あんず

第 41 号

発行責任者　福地 季子
〒317-0056　日立市白銀町 2-17-1
TEL. 0294-21-4150

今年もにぎわった夏祭り

７月１２日日曜日　恒例のあんずの夏祭りが行われました。
総勢１３３名の参加でした。仕事や色々な予定をやり繰りして
来てくれた外国人や他団体の方々あんずの皆さん本当にありがとう。
今回はパーティーの裏方の話です。
まず７月７日に実行委員会が開かれ、参加者の班分けとパーティーのメニュー検討と役割分担をしました。
野外パーティーの主役はなんと言ってもバーベキューとゲーム。献立はベテラン主婦が采配を振って材料を調達し、いよいよ調理開始。いろんな国から来ている参加者が、文化習慣の違いをもろともせず、かまどを造ったり、野菜を刻んだり、肉を焼いたりと、それぞれが楽しく協力し合う賑やかさは、まさに国際交流ならではの光景でした。しばし各班毎に、手づくりの料理と会話を大いに楽しみました。
　ゲームは、ジャンケン集合ゲームをはじめ、森のくらし、わなげ、ダルマおとしなどを楽しみましたが、毎年一番人気は「スイカ割り」。子供たちが周りからのやんやの歓声を受けて、スイカに向かって行く姿は、いつ見てもほほ笑ましい。
　かくして賞品をもらって喜んでいるたくさんの笑顔ともに、ゲームも楽しく終りました。今年も　皆さんに喜んで頂けてよかったです。帰り道はココロも満タンになりました。

安藤　勝

７つのかまど

綿あめ

ジャンケンゲーム

スイカ割

総会盛会に終わる－４月１９日

桜川町「はくせん」にて２１年度の総会が開催されました。役員のメンバー役割が新体制になりましたが、昨年同様の活動を継続していくことを確認した総会の後中国に駐在していた経験を反町正美さんがパワーポイントで説明。ごはんをつくらない中国のくらしを羨ましがったり製品実物に触ったりなごやかで楽しい会でした。

お惣菜教室

お惣菜教室を始めて３年目に入り、生徒たちにも和食への理解度が深まって来たように思われます。健康志向が問われる昨今、安心して食すことの出来るバランスの良い献立は非常に重要である。日本のお惣菜について生徒から意見をきいたところ、「日本食に慣れてしまって、自国の料理はもう、脂っこくて･･･」と言っていました。健康面も無論ですが、和食の繊細さ（かくし包丁、面取り）等、食を通して日本の文化をつたえていきたいと思います。

天ぷらプロのこつ

材料（４人分）

薄力小麦粉	100ｇ･･･２、３回ふるう
卵	１個
冷水	150 c.c.
（卵１個に冷水を加え 200c.c.とすればよい）	
揚げ油	適宜

衣作り：ボウルに卵、冷水をいれて混ぜ合わる。次に薄力小麦粉を加えて太い箸で軽く混ぜ合わせる。粉が少々残っている程度でよい。

揚げる：170℃位の温度の油で、タネに薄く小麦粉をまぶしてから、衣をつけてあげる。野菜から揚げ、次に魚介類を揚げます。油の温度を下げないように、一度に入れる量は油の表面の半分ぐらいにする。

「ボランティア祭り」に参加

８月１９日､福祉プラザで日立市ボランティアグループ連絡会グループ交流会（通称「ボランティ祭り」）が開かれました｡今年は２７のグループが集まっての交流会です。２００名ぐらいの人たちが集まりました｡演台では次々と元気な中高年によるオカリナ演奏､ハンドベル、コーラス、手話の歌、銭太鼓の披露などがあり、昼休みをはさんで民舞、ハーモニカ演奏など、どれも大変な拍手を浴びアンコールもたびたびで､大変なもりあがりでした｡最後には小学校生から高校生の女の子３０名近くのヒップホップダンス､大抽選会で楽しくにぎやかに終りましたが､観客席の両側には草花を生けさせたり、新聞でブローチを作らせたり。写真などの展示物、飲み物、食べ物の売り場、かき氷まであってお祭り気分でした。また会場入り口では、お菓子、パン、陶器、手工芸品などのバザールとフリーマーケットが開かれました。フレンドリーあんずの参加はフリーマーケットとお弁当売りです｡会員からだしていただいた品々は衣類を除いてほとんど売れました｡ご提供ありがとうございました。また、赤飯きんぴら弁当は各グループからの予約と当日販売用として約９０個を作り完売。前日から諸沢さん宅で仕込みをし、当日は７時からと延べ２０名の会員が弁当作りに参加しました｡「とってもおいしかったわ」とうれしい声がかかりました。

日ごろ､ボランティア精神をもって、活動している人たちの明るい前向きのパワーとその結束力が感じられた楽しい交流会でした。

今野 美千子

自治体国際協力促進事業について
～教本作成及びワークショップ参加の記～

８月６日から１２日までラオス国ヴィエンチャン市にて教本の贈呈式とワークショップが行なわれました。

８月７日、ドンカムサーンのモデル幼稚園にて、平成１９年から２０年の２年にかけてつくられた、ラオスの幼稚園教育における教師のための教本(幼児教育専門書)の贈呈式が行なわれた。

この教本は日本の幼児教育専門家とラオスの教育省やドンカムサーンの先生方、翻訳家、印刷関係者等たくさんの方々の協力で完成されたものです。

贈呈式には教育省教員養成局局長のミートン氏他、教育省幼稚園・小学校局副局長ソンブン氏など１０名の方が参加されました。

教本は教育省幼稚園・小学校局へ１０００部、教育省教員養成局へ５００部が贈られました。舩山事務局長は「この教本が幼稚園の先生方のお役に立つことと、有効に活用されることをねがっています。」と挨拶されました。

贈呈式の模様は現地ヴィエンチャン（英字新聞）にも大きく取り上げられました。

８月８日から１０日の３日にわたって教本の紹介をしました。参加者は国公私立幼稚園の先生方４１名、その他教育局の先生方も参加されていました。

ワークショップはとても好評です。限りない要望がだされています。

要望　エトセトラ

・月１回やってほしい　　・毎年これ以上の研修をやってほしい
・日当を増やしてほしい　・子どもに直接指導してほしい
・参加人数を多くしてほしい　……　等々

諸沢　和子

安井 清子さん講演から
～ラオス山の子どもたちの生活と図書館活動～

６月２１日、水戸市国際交流センターに於いて、長年ラオスにて活動し、現在、ラオス山岳地帯に暮らすモン族の村で図書館活動を支援していらっしゃる安井さんの語り口や、表現力豊かな絵本の読み聞かせは、聞いている人をラオスの山の村へいざない、引き込まれてゆくように感じられました。

また、ビデオに写しだされたモン族の子どもたちの目の輝きや水汲みや牛の世話をする日常の生活などは、大変な生活であろうとも山に生きる彼等のたくましさをあらわしていました。

そして、山から木を切り出すところから始まり、２年間をかけ村民の協力で作り上げた図書館は、大勢の子どもたちの笑顔あふれる場所になっています。

モン族は元々文字を持たない民族ですが、村民は村の暮らしを感性豊かな刺繍で見事に表します。

安井さんは、このような情緒豊かな文化を失うことのないようモン族の民話、口頭伝承、生活ぶんかの記録にも携わっています。

大切なことは何かという「活動の原点」を見た思いがした講演でした。

金岡　けい子

国際交流協議会主催講演
「地雷除去に挑む」をきいて

私は夏のある日、雨宮 清氏（山梨日立建機社長）の「地雷除去に挑む」の講演を聴く機会をえた。雨宮氏は社内に「地雷除去機会の開発プロジェクト」を立ち上げ、国よりの援助はあるにせよ採算を度外視しての取組みであるとの事。実体験を通しての悲惨な様子を聞き、又、地雷で手を失い、足を失う子供達の映像をみて私は言葉を失った.識字率が低い為に地雷の被害にも遭うのだと言う。未来ある子供達から笑顔を奪ってはいけない。人間の起こした戦争で人間が破滅して行く･･･何と愚かな事かと思う。
カンボジア、アフガニスタン等六ヶ国に除去来６８台納入できたとの事。どれだけ多くの人々が心神共に救われている事でしょう。又、除去した跡地を緑豊かな大地にし、野菜等の栽培で自立、自活出来るまでの支援を続けていきたいとの事。着実に事実を結んで行きたいとの事。頭の下がる思いで話を聴いた。着実に実を結んで行く事を願わずにはいられない。広島、長崎に原爆が投下され、様々な傷を残した戦後６４回目の夏と重なった。

松浦 絢子

日本語教室の今

～和やかな授業～　梅津 慶子

あんず金曜教室で中国や台湾出身の４人の女性と中級の本を使って勉強しています。皆さん日本人と結婚していて、自国でかなり日本語の学習をしてきた方たちなので、生活上の情報交換なども交えて会話を中心に言っています。例えば、料理の手順を説明するという単元の時には、お互い得意料理についてお話をしました。すると次の週には、各人が家でそれを作っておいしいと褒められたことが話題になりました。私のところも、写真付きでメールを送ってくれました。説明をきちんとすることができ、聞き手もちゃんと理解できているということの現れと嬉しくなりました。これからもこんな調子で和やかな授業が続けられたらと、思っています。

～大変さと楽しさの中で～　大西 笙子

国際交流、多文化共生という文字が大きく定着してきた最近ですが、私は大学留学生のホームスティを引受け始めたのは子どもが小学生の頃でした。その時、私の子供達の驚きは、大きく、素朴で新鮮なものでした。彼等が自国に帰り帰国してからも交流は、続いています。国の違いを越えても解り合える喜びは、何物にもかえがたいです。これなの小さなつながりも大きな輪になり、私達に大きな喜びをもたらしてくれると思います。最近は日本に滞在する外国の方も増えました。日本語を教えるフレンドリーあんずに在席することになり、教えることの大変さと楽しさの中で日々ゆれ動いています。日本語は、私にとっても新鮮に写っています。周りのボランティアの方々の真剣な熱意とやさしさを目標にして勉強を積み、自分らしさが少しでも役に立つボランティアになれたらとおもっております。.

あしあと

※ 総会
- フレンドリーあんず　4/19
- 「茨城アジア・教育基金」を支える会　5/16
- 日立国際交流協議会　5/22
- 日立ボランティアグループ連絡会　5/25

※ 平和展　講演会　雨宮　清氏　8/9
「地雷除去に挑む」

※ お惣菜料理教室（たけのこご飯　）　5/17
（てんぷら）　7/26
女性センター

※ フレンドリーあんず夏祭り　7/12

お知らせと今後の予定

- 女性センター祭り　10/17,18
（女性センター）
- 男女共同参画を　10/31
すすめるつどい
- 国際文化祭り 2008　11/14
シビックセンター
- フレンドリーあんず　12/13
年忘れ会
（会瀬交流センター）

編集後記

今回から半田さんが編集責任者となりました。これからはフレンドリーあんずと交流のある外国の方の様子の記事も載せていきたいことでス楽しみですね。